

新年のご挨拶

公益社団法人 熊本県精神科協会 会長 相澤明憲

平成28年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。いつまでも暖かい冬が続いていましたが、年が明けてようやく冬らしい気候になりました。

昨年熊本県精神科協会の活動を振り返ります。昨年また「医療・介護サービスの提供体制改革のための財政支援制度」のアイデアに取り組みました。なかなか実現させることができませんが、このような検討を行うことが貴重な経験となっていくのだと思います。とりあげられないから無駄というのではなく、今年もチャレンジしようと思います。

あかねの里では、あかね荘の定員削減を行いました。このことは経営の安定に大きく寄与しています。長く社会復帰事業の運営事業に取り組んできた組織としての経験値とスタッフの力量は、県内の精神障害者の社会復帰に大きく役立っています。

救急情報センター事業、二次救急医療事業の二つの精神科救急委託事業は、県下の精神科救急を支える大きな柱になっています。ところが事業を運営するために必要な委託費を減らすという動きがあります。これは制度の根幹に関わることであり、単にお金の問題というだけでなく、行政がこの委託事業をどうとらえているのかということでもあります。協会員の皆さんと相談しながら、納得のできる解決をはかりたいと思っています。

昨年の巻頭言にも書きましたが、協会が取り組むべき課題には、精神科救急のほかに小児思春期

の精神医療、認知症医療、ストレス関連精神障害医療の充実などがあります。まだ具体的な形にはなっていませんが、いずれも息の長い取り組みが必要なのだと思います。

一年間のうちに協会の中でいろいろな慶弔がありました。2月20日梶尾三郎先生が、4月14日日隈健作先生が、7月17日坂本眞一先生が、7月19日寺岡葵先生が、10月8日に高森笛美先生がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

一方、慶事として前会長であるくまもと青明病院の宮川洸平先生が瑞宝双光章受勲の栄に浴されました。荒尾こころの郷病院の王丸道夫先生が厚生労働大臣表彰を受賞されました。益城病院の松永哲夫先生と城ヶ崎病院の中田榮治先生が熊本県知事表彰を受けられました。多年にわたる精神保健医療福祉のご功績に対し、深甚の敬意と祝意を表します。

平成28年の干支はサルです。私は、サルという西遊記を思い出します。子どものころ、石から生まれた猿の孫悟空が、天地をまたにかけて暴れまわる奇想天外な物語にワクワクしたものです。孫悟空が、いろいろな妖怪たちを戦うところが一番の見せ場です。その戦いを始める前に、まずお互いを罵り合います。俺はお前よりずっと偉くて強いのだということを口で言うのですが、その時「俺はお前のお爺さんの孫悟空だぞ」などと叫ぶのです。なんだか不思議な口上だと思いましたが、どうやらこれは相手より年をとっていること、年配であることが値打ちのあることとされているのだ、と気づきました。そういえば日本でも幕府の

えらい人は「老中」ですし、「若年寄」という役職もあります。「大老」というのもある。わが国も、老いということが値打ちのあることとされていたのでしょ。今でもお相撲では、力士引退してえらくなつた人たちを年寄りと言っていますね。

老人を大切にするというのは、実は世界中の様々な民族に共通しているのだそうです。それは偶然ではなく、老人を大切にしない集団は、大切にす集団にくらべて生き残りに不利があり、結果として老人を大切にす民族だけが残つたといふことらしい。

今、わが国では平均寿命が延びて、高齢化社会と言われるようになりましたが、しかしそのマイナス面ばかりが強調されているような気がします。まるで社会の重荷であるかのようです。確かに医

療や福祉が大変だというのはわかります。しかし長寿はそれ自体で価値のあることなのです。老いに敬意を払ふことは、その社会もよくすると考えるべきだと思います。

申年（さるどし）のことから、少し飛躍してしまいました。

平成28年も協会は様々な課題に取り組むことになると思いますが、その活動が、熊本県の精神医療福祉の発展に寄与し、会員の皆さんの医療活動の助けとなるべく努力をしたいと思ひます。ご協力をよろしくお願いいたします。

新年が皆様にとりまして希望に満ちた明るい年となりますよう祈念し、ご挨拶といたします。

